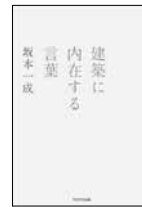


# 〈建てること〉の射程

司会：長島明夫 日時：2011年6月2日 場所：ジュンク堂書店池袋本店

【さかもと・かずなり】建築家。1943年生まれ。アトリエ・アンド・アイ 坂本一成研究室主宰、東京工業大学名誉教授。主な作品《House F》(日本建築学会賞作品賞)、《COMONSHITY 星田》(村野藤吾賞)、《QUICO 神宮前》、《宇土市立網津小学校》、著書『坂本一成 住宅一日常の詩学』『建築に内在する言葉』(TOTO出版)、『坂本一成/住宅』(新建築社)、共著書『対話・建築の思考』(住まいの図書館出版局)、『建築を思考するディメンション——坂本一成との対話』(TOTO出版)など。

【つかもと・よしはる】建築家。1965年生まれ。アトリエ・ワン共同主宰、東京工業大学大学院准教授。主な作品《ミニ・ハウス》(東京建築士会住宅建築賞金賞、吉岡賞)、《ハウス&アトリエ・ワン》(グッドデザイン賞)、著書『小さな家』の気づき』(王国社)、共著書『図解アトリエ・ワン』(TOTO出版)、『アトリエ・ワン 空間の響き/響きの空間』(INAX出版)、『The Architecture of Atelier Bow-Wow: Behaviorology』(Rizzoli)、『WindowScape 窓のふるまい学』(フィルムアート社)など。



この対談は、今年の1月に刊行された坂本氏の著作『建築に内在する言葉』(TOTO出版)の刊行イベントの第2回として行われた[\*1]。ももとは3月17日に予定されていたが、震災の影響で2ヶ月半ほど時期を遅らせての開催となった。対談のテーマは震災以前に考えていたものと変わりなく、今回の特集「建築の持ち主」を踏まえているわけではない。けれども、対談のキーワードになった建築の共同性や、なんのために建てるのかという問いは、そのまま本特集の重要な視点として位置づけられる。ただ、『建築に内在する言葉』の内容を前提としているため、ここでの掲載に当たっては、同書の編集にも携った長島が適宜捕捉的な註を付した。

## 建築の共同性

——新刊の『建築に内在する言葉』は、坂本さんが三〇年以上にわたって発表されてきた文章をまとめた本です。塚本さんは東京工業大学の坂本研究室のご出身であり、本の後書きでも、坂本さんに出版を勧めた一人としてお名前が挙がっていました。当然、収録された文章の影響も少なからず受けられています。当然、収録された文章の影響も少なからず受けられています。今回のお二人の対談ではこの本の内容を軸に、お二人が師弟関係のなかで共有する部分、そしてそのなかでさらにお二人の独自の部分まで浮かんでくると面白いのではないかと思っています。



アンドレア・パラディオ肖像 (絵：ペルナル・ピカール、1716)

塚本 坂本先生の論説は、学生るとき雑誌からコピーしたものを束ねて読んでいたのですが、今回本として読み直す機会を得て、あらためてすごいなあと思いました。後書きで書かれていますけど、パラディオ(1508-80)やアルベルティ(1404-72)の建築論を読んで自分も書いてみたいと思ったというのがやっぱりする。建築家としてまだこれからというときに、パラディオやアルベルティと自分を並べている(笑)。

坂本 誰かに指摘されるんじゃないかと思ってた(笑)。

塚本 でもその意気込みを裏切らない、本質的な建築論だと思います。私が読んだ建築論は坂本先生経由の部分も多いから、必ずしも正確な判断ができるとは思わなくても、建築についての思考あるいは論というもので、これだけ掘り下げたものはなかなかない。



その上で今日は聞きたいことがいくつかあります。今回の対談タイトルにも関係あるところですが、第一章、「建てること、住むこと、考えること」[\*2]という例のハイデッガーの講演(1951)を「〈住むこと〉」「〈建てること〉」、そして「〈建築すること〉」(1978) [\*3]とバラフレーションして書かれているところを読んでいた、最近自分が思っている〈建てること〉と違うと思いました。

それは〈建てること〉のなかにあるようにしようもない共同性についてです。あらためて確認してみないと分からないのですが、もしかしたらハイデッガーにも、〈建てること〉という言葉に共同性を託すニュアンスはあったかもしれない。でも坂本先生の〈建てること〉は、共同性を想定されていないのではないか。

坂本 そうですね。塚本さんは言葉も巧みで、最近のビヘイビオロジー(ふるまい学)もそうですが、端的な言葉で、比喩的に扱っていく。でも僕は比喩的な表現が弱いというか、

[\*2] マルティン・ハイデッガー「建てる・住まう・考える」『ハイデッガーの建築論——建てる・住まう・考える』中村貞志訳編、中央公論美術出版、2008 [\*3] 初出：『新建築』1978年12月号

[\*1] 第1回は、坂本一成 × 長谷川豪 × 能作文徳 × 長島明夫「対話：建築のことばとたち」(2月25日/ジュンク堂書店新宿店)。抄録がTOTO出版のホームページ (<http://www.toto.co.jp/publishing>) に掲載されている